

---

# 遊戯王5d'sにトリップ!?

星流龍

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

遊戯王5d'sにトリップ!?

### 【Nコード】

N9186W

### 【作者名】

星流龍

### 【あらすじ】

オレの名前は倉川龍くわがわ りゅう。気付いたら、知らない世界に居たんだ。つか、どこ? えっ、5d's? これからどうすればいいんだ!!! 作者「まっ、ガンバ!」いや、ガンバじゃねえ!!! 注意:これは、初の小説なので、暖かい目で読んで下さい。後、デユエルの方は、イマイチなので、頑張つて勉強したいと思います。

## プロローグ(前書き)

初の小説〜!!!こんな作者ですが、見て下さい!

## プロローグ

SIDE:???

「・・・どこだ、ここー!!!」

これが、オレの最初の感想。いや、そりゃそうでしょ。目開けたら、知らない天上があったら、普通はそうでしょ。えっ、違う? まっ、オレはこう言うヤツなのさ

まっ、それは置いといて。オレは自分の周りを見た。全部白かった。いや、どこのエヴァなの?

すると・・・

「あっ、起きましたよ 神様! どうします?」

「・・・状況を説明してやれ。」

「はいはい!」

順番に言つと、小さい女の子 おじいさん 小さい女の子

そして、小さい女の子は、オレの方に駆け寄つてこう言った

「あなたは、死にました。」

「・・・はい?」

「だから、あなたは死んだんです! でも、それは私のミスでどうしようかと今神様と話してたんです。で、あなたはどうしたいんですか?」

「・・・」

「神様、この人 転生でいらしいですよ!」

「いや、何にも言つてないから!」

「そうか、そうか。転生でいいんだな。」

「だから、何にm「じゃ、あの世界でいいか。必要な物は送つておく。じゃ、第二の人生楽しんできて」はあ?」

そして、オレの真下に穴ができ、オレはその中に落ちた。

「だから、勝手に決め付けんな!!!」

そして、オレの意識が途切れた。

## プロローグ（後書き）

・・・下手ですね、はい。

こんな作者ですが、どうか見守ってください。

それでは

## 第一話（前書き）

読んでくれて、ありがとうございます！結構~~~~ですが、そこは見逃して下さい！  
では、始めます！

## 第一話

SIDE:???

「あああ!!!誰だこの人?ねえ、龍可この人知ってる?」

「知らないわよ!でも、その前にこの人中に入れよう、龍亜」

・・・うるさいな、周りの奴ら。人がせつかく寝てんのに。一回叱るか?つか、あの白い部屋は夢だったのか?まつ、何にも始まらないから一旦起きるか。

オレが目を開けた時、目の前に緑色の髪の子供がいた。その子供は一つに髪を結んでいた・・・って言うか、あれ?この子供、どこかで見た事あるんだけど・・・まつ、色々聞か

「あつ、起きた!おい、龍可!この人起きたぞ!!!」

「はいはい。もう、龍亜ったらうるさいんだから・・・ごめんなさい、うるさくって。私の名前は龍可。で、私の隣にいるのが「龍亜」って言うんだ!よろしく!!!」私たち、双子なの。私が妹で、龍亜が兄なの。あなたは?」

・・・いやいや、これはないよね???絶対ないよね???

何でこの二人居るの!!!!!!?????????????

この二人「遊戯王5d's」のメインキャラじゃん！！ナンデココニイルノー！！！！！！！！！！？？？？はっ、確かあのおじいさん、転生やら何か言ってたよな・・・っ！事は、オレ5d'sに転生したのー！！！！マジ無いって！

「なあ、何ですつと黙ったままなんだ？少し位自分の事、話せよ！！」

「ちよつと、龍亜！それは失礼でしょ！もしかしたら頭が混乱してるのかもしれないでしょ！？」

龍可さん、予想当たってます。でも、どうやって説明しようかな・・・！ピンポン！！！！記憶喪失って事にしよう！それなら、深くは追求しないだろう！

「オレの名前は倉川龍って言うんだ「喋った！」「ちよつと、龍亜！」「ここはどこだ？」

「えっ、知んないの？ここネオ童実野シティのトップスだよ。でも、何でここに居るの？」

「・・・知らない（これは、事実だし嘘は言っていない）」

「どこに住んでたの？」

「それも知らない（っ！か東京って言ってもこの世界には無さそうだからなー）」

「なあ、龍可！この人遊星見たいだな！まあ、遊星は色々教えてく

れたけどね。でも、何で住んでる場所まで忘れるんだ？」

「ねえ、龍亜？もしかしたらこの人記憶喪失なんじゃない？」

龍可ナイス！このまま物事進め！！！！

「記憶喪失ねえ・・・（でも、もし悪者だったら・・・！そうだ！アレしよう！）ねえ、龍さん！」

「んん、何だ？（この流れってまさか・・・）」

「デュエルしよう！もし龍さんが勝ったらここに住んでいいよ！」

「ええ、龍亜！？」

「だって住む所ないじゃん！記憶喪失なんだから！でも、龍さんが負けたらここを出て行ってもらおうよ！別にいいでしょ、龍さん！」

「ああ。後、オレの事 龍でいいぞ（やっぱりこれかー！！！！でも、どうにかなるだろ 多分・・・）」

「はあ、分かったわよ でも、龍が休んでからよ。30分後って事でいい、龍？」

「ああ、構わないけど（その間にデッキでも探すか。あのおじさんが用意してるはずだろな）」

「じゃあ、30分後にデュエルだー！！！！！！」

「「お、おう」「

・ ・ ・ こんな感じで龍亜とデュエルする事になった

## 第一話（後書き）

はい、次の話は龍亜と龍のデュエルです！  
でも、その前に主人公の設定を書きます！  
読んでくれて、ありがとう！！！！

## 主人公設定（前書き）

今回は、主人公の事を説明します！

## 主人公設定

### 主人公設定

名前：片倉かたくら 龍りゅう

年齢：14歳

身長：167cm

誕生日：4月27日

性格：

正義感が強い

色んな人に優しい

ほとんどツッコミ担当

キレると性格が変わる（その内登場すると思います）

趣味：デュエル ゲーム 昼寝

見た目：

黒い髪にこげ茶色の瞳

すごく顔が整ってる

前世も同じ顔

本人は自分がかっこいい事をまったく自覚してない

好きなもの：友達、デュエル、唐揚、ゲーム

嫌いなもの：カードを奪う奴、カードを傷つける奴、いじめをする

奴、納豆

使用するデッキ：色々使います

主人公からの一言：

これからもヨロシク！

## 第二話（前書き）

今回は龍vs龍亜です！

話は結構gggdですが、そこは見逃して〜！！！！

後、説明は話の後に書くので読みたい人は読んで下さい！  
では、始まります！

## 第二話

SIDE：龍

三十分の間、オレは改めて回りを見た。原作通り、そこはトップスだった。やはりここが最上階なのか、景色がよかった。まっ、そんな事よりも早くデッキ探すか！

・・・って、思ったが別に動く必要がなかった。だって、隣に黒いバッグがあつたからだ。やっぱ、神ってすごいわ。

とりあえずバッグの中を見ると、こんな物が入っていた：

- ・デッキ×3
- ・財布
- ・デュエルディスク
- ・手紙

最初オレは手紙を読んだ。やはり、この手紙は神が書いた見たいだ。内容は：

倉川 龍へ、

やっほ〜！元気か？

この世界で第二の人生を送って欲しい

話は原作通りのはずだけど

もしかしたら、オリジナル・イベントが起こるかも知れないよ

まっ、そこら辺は頑張って！

都合が悪くなったら、寝る前に

「神様に話したい！」って思ったら

話せるから

じゃ、頑張つて〜！  
神より

・・・ふざけんな！！！！！！！！お前はどっかの女子高生かー  
ー！！言い方キモツ！何が「知れないよ」「じゃー！！！！！！  
あの糞爺、コテンパにすんぞコラッ！

・・・はあ、もうこの手紙の御陰でデュエルする気失せた。どうし  
ろつてんだ。

「おい、龍！デュエルしようぜ！」

龍亜か・・・はあ、デュエルする気ねえけど、しなきや住む所無く  
なるからな〜・・・仕方が無い、適当にデッキ取ってやりますか。

「龍、準備できたか？」

「ああ。龍亜は？」

「準備万端だよ！さあ、やろう！」

「ああ（早く終わらせよつと）」

「デュエル！！！」 「デュエル・・・」

SIDE：龍可

龍亜と龍のデュエルが始まったわ。先攻は龍見たい。

「オレのターン、ドロー。オレはゴブリン・ドバークを召喚する」  
龍のフィールドに一人用の飛行機に乗った悪魔が出て来た。でも、あんなカード在ったかしら？

「（そっぴや、このカードZEXALのカードだったな・・・と言  
う事は、このデッキ、エクシーズ・デッキか！？ヤバツ、頑張つて  
エクシーズ召喚しない様に頑張らないとな・・・）そして、ゴブリ  
ン・ドバークの効果発動！このカードが召喚に成功した時、手札か  
らレベル4以下のモンスター1体を特殊召喚する事ができる。オレ  
はハウンド・ドラゴンを特殊召喚する！」

そして、黄色いドラゴンがフィールドに現れる

「この効果を使用した場合、ゴブリン・ドバークは守備表示になる。  
そしてマジック・カード、悪魔への責物を発動！オレはハウンド・  
ドラゴンを墓地に送り、もう一体のハウンド・ドラゴンを特殊召喚  
する！そしてカードを一枚伏せて、ターン・エンド。」

龍のターンが終わった。でも、何でハウンド・ドラゴンを墓地に送  
ったのかしら？それに伏せカードも気になるわ。

「オレのターン、ドロー！シャキーン！！オレはマジック・カード、  
死者蘇生をはてこの時、オレはトラップ・カード、魔境の賄賂を  
発動！このカードは、マジックかトラップ・カードを無効化し破壊  
する！そして、相手は1枚ドロー出来る！」ああ、オレの死者蘇生  
が！」

ああ、この為ね・・・でも、また知らないカードが出て来たわ

「で、でも死者蘇生を破壊されたって、まだモンスターを召喚できる！オレはD・リモコンを召喚ジャジャー！そしてバトル！D・リモコンでゴブリン・ドバークを攻撃！」

「つく！」

「そしてカードを一枚伏せてターン・エンド！」

「オレのターン、ドロー！（っち！いいカードが無い！）そして、そのままバトル！ハウンド・ドラゴンでD・リモコンを攻撃！」

「うわあ〜！！！！」

龍亜LP：2600

「そしてカードを一枚伏せ、ターン・エンド！」

「オレのターン、ドロー！シャキーン！D・リモコンを召喚！ドツカーン！そして1ターンに1度、自分の墓地に存在する「D」と名のついたモンスター1体をゲームから除外し、自分のデッキからそのモンスターと同じレベルの「D」と名のついたモンスター1体を手札に加える。オレはD・ボードンを手札に加える！そしてカードを一枚伏せてターン・エンド！」

「オレのターン、ドロー！オレはマörderサーカス・ゾンビを召喚！そしてバトル！マörderサーカス・ゾンビでD・リモコンを攻撃！」

「トラップ発動！動解除「龍亜、甘い！オレはトラップカード、トラップ・スタンを発動！このターンこのカード以外のフィールド上の罠カードの効果を無効にする！」ああ！！！！」



「それじゃ、改めて自己紹介します！片倉龍だ、よろしく、龍亜、龍可！」

「うん！」 「ええ」

そしてオレは龍亜と龍可の家に住む事になった

・・・すっかり神の事忘れてた 今日之夜、色々聞くか  
くくく・・・糞爺、待ってるよ  
お前を今夜ボコッてやる！！！！！！

## 第二話（後書き）

更新遅くなってすみません!!!

えー、では今回のお話を説明したいと思いま〜す

このデュエルは新しく出たタッグ・フォース6で行われました

本当にこんな感じに楽々と龍亜を倒しました

でも、自分も最初に使ったデッキがエクシーズ・デッキだった事は  
戦い終わった後に知りました

いや〜、これって奇跡なのか・・・

まあ、次回は龍の死が判明します！

ぜひ、次回も読んで下さい!!!

それでは！

### 第三話（前書き）

今回は龍の死を説明します！  
変な感じになるかも知れませんが、頑張ります！  
では、始めます！

## 第三話

SIDE:龍

んんっ・・・ここはどこだ？また、知らない部屋かよ！？たしか、龍亜と龍可と晩御飯一緒に食べて寝たと思っただが・・・

っー事は、ここ神の空間みたいなヤツ？おっしゃ、何がどうあろうが、絶対神をぶちのめしてやる！！

「はいはい！龍さん、こっちです！」

「・・・っーか、誰？」

「何言ってるんですか、龍さん！私が神ですよ！！！」

「んなワケねーだろが！ちっちゃい女の子が神って言う時点でおかしいわ！本当に冗談はやめろ。さあ、あの爺はどこだ？」

「あの、おじさんですか？ああ、あの人私の部下ですよ」

「・・・One more time？」

「何で英語になるんですか？だーかーらー、私が神であのおじさんは私の部下なんです！！！」

「MA JI DE!!!嘘だろ！でも何で「あなたが転生した事ですか？」違う！！！！オレが会った時、神は爺のはずだったぞ！！！」



そう、今オレは自分が住んでいた町にいる  
そしてオレは死ぬ前の自分を見ていた

「何か自分を見るのって何か気持ち悪りー・・・」

そう文句を言いながら、オレは自分を見ていた  
死ぬ前のオレは普通にコンビニまで歩いていた  
普通だなんて思った瞬間、オレは自分がいきなり倒れたのを見た  
周りの人はオレを揺さぶったりしていたが、オレは起きる事は無か  
った・・・

「自分の過去を見て、何か悔しい事はありませんか？もし良ければ、

元に居た世界に戻しますよ?」

「・・・いや、別にいい。オレはあの世界では死んだんだ。また生き返ってあの世界に戻る必要は無いんだ。オレはこの世界で生きてくよ!」

「そうですか!では、5d'sの世界に戻しますね 後、何か欲しい物はありますか?」

「そうだな・・・じゃ、オレが元居た世界のカード全部と後オレの事を治安維持局のデータに乗っけといてくれない?ゴドウィンに説明したく無いからな・・・」

「それ位は容易い事です!では、さようなら!!!あつ!後はあ・・・の・・・」

「ちょっと待て!後の続きは何だ?!説明しろや!!!!!!!!!」

そこでオレの意識は途切れた・・・

SIDE:龍可

朝起きて龍の様子を見に入っただけけど・・・

「どつ言つ事が起つたの?」

その部屋の周りを見た事の無い黒いスーツケースが6個あった

昨日はこんな物無かったのに・・・

「うっ・・・」

「龍、おはよう」

「・・・ああ、おはよう。・・・っか龍可、オレは別に構わないけど何故黒いスーツケースが6個あるんだ？」

「私も知らないわ。私が来た時にはそれがあつたの」

「（て言うかこれ、あの神がくれたカードじゃね？何で隠そうとか思わねーんだ！？お前は馬鹿かつ！）たく、ここは嘘でもつくか・・・）ああ、思い出した！オレ、寝る前にここに来たらこれが在つたんだわ！わりーな、龍可これオレのだわ」

「・・・龍の行動がおかしい。まるで何かを隠そうとしてる観たい。仕方ないわ・・・」

「ねえ、龍？」

「何だ？」

「朝御飯食べた後、私とデュエルしない？」

「ああ、別にいいけど？」

「もし私が勝つたら、すべて知ってる事を話して」

「そりゃ、せんば正直に「・・・ああ、いいよ）やっぱりNEXT

A Lのカードを使ったのが間違いだったか・・・まあ、デュエルするか」

「後、龍亜に使ったデッキで戦ってね、それじゃ」

龍と話した後、私は自分のデッキの調整をする事にした

龍、今回のデュエル私は勝つわ！

そして、あなたが知ってる事全部話してもらおうわ！

### 第三話（後書き）

・・・はい、何か龍可のキャラが変ですね  
明日香みたいです・・・

まあ、それはさておき！

次回は龍可 vs 龍です！

またT G 6を使いたいと思います！

では、また！

## 第四話（前書き）

更新遅くなってすみません!!!

もう、こんなに遅い更新は今回だけにしたいと思います！

今回の話は龍可vs龍です！

では、始まります!!!



今の状況を説明をすると：

龍亜と龍可はオレの事をジーーーーーっと思っている。しかも怪しい目で。正直に言う、オレナーンにも悪い事してないよ？これ、全部神のせいだからね？オレは耐え切れず龍可に話しかける。

「デュエルは食べた後だよな？」

「ええ、そうよ。後、龍亜とデュエルに使ったデッキでやってね？」

「ああ、別にいいけど・・・龍亜と龍可、何でオレの事をそんな目で見るんだ？そりゃ、オレは不審人物だぞ？でも、別に悪い事はしてないと思うが・・・」

「別にそんな事思ってないよ！」わよ！」

・・・うん、思ってる事で確定だな。はあゝあ・・・早く時間進んでくれないかね・・・

～30分後・・・～

はい、やってきました龍可とのデュエル。あまり気は進まないけど、行きますか！

「龍可、準備はいいか？」

「ええ・・・それじゃあ」

「デュエル！！」

「先攻はオレだな。オレのターン、ドロー！オレはモンスターを裏守備表示に召喚！オレはカードを一枚伏せ、ターン・エンド！」

「私のターン、ドロー。私はサンライト・ユニコーンを攻撃表示で召喚。そしてそのままバトル！サンライト・ユニコーンで伏せモンスターを攻撃！」

「オレの伏せモンスターは岩石の巨兵で守備力は2000だから破壊されない！」

「きゃあ！」

龍可LP：3800

「っ私はカードを二枚伏せて、ターン・エンド。」

「オレのターン、ドロー！（そう言えば、龍可のデッキってたしか・・・）」

「ここでトラップ・カード、シモツチの副作用を発動！」

バーン・デッキだったーーーーー！！！！

「そしてトラップ・カード、ギフトカードを発動！でもシモツチの副作用で3000のダメージを与える！」

「つつく！」

龍LP：1000

どうする、オレ・・・ライフ結構ヤバいぞ！後1000だけだぞ！  
！！どうする、オレ！？

「オレは手札を一枚捨て、THE トリックを特殊召喚！そして、  
岩石の巨兵を攻撃表示に変更し、バトル！THE トリックでサ  
ンライト・ユニコーンに攻撃！そして岩石の巨兵でダイレクト・ア  
タック！」

「きゃあーーーー！！！！！」

龍可LP：2300

「そして、カードを一枚伏せてターン・エンド！」

「つつ！私のターン、ドロー！私はマジックカード、ハンマーシュ  
ートを発動！」

そしてハンマーシュートの効果でTHE トリックが破壊された

「そして私はフェアリー・アーチャーを召喚！そしてそのままバト  
ル！フェアリー・アーチャーで岩石の巨兵を攻撃！」

「つつ！」

龍LP：900

「私はカードを二枚伏せ、ターン・エンド！（今私が伏せたカード  
はマジック・ジャマーとマジック・シリンダー・・・龍はどんな事  
をするのかしら？また、知らないカードが出てきたりして・・・）」

・・・何か龍可がこつちをメツチャ見てる様な気がするが・・・ま  
あ、いいや！お願いだから、いいカード、来い！



「そう、フェアリー・アーチャー以外居ない！」

「でも、龍。フェアリー・アーチャーを破壊出来たとしても、まだ私のライフは残るわよ？」

「ああ、もしオレがそうすればな。だが、オレは別の方法で勝つ！オレはレスキュー・ラビットを召喚！」

そして、オレの目の前にレスキュー・ラビットが現れた。

「キュキュー！！！！」

・・・あれ？オレの目の錯覚か？何かオレの事をジッと見ながら何か鳴いてないか？もしかして・・・

「「精霊？」」

オレと龍可の声が重なった。龍可は吃驚しながらオレの方を見た。

「龍って、精霊見えたの！？」

「いや・・・オレも今知ったとこなんだ。」

「つか、オレの精霊がレスキュー・ラビットって・・・何か、虚しくね？」

「・・・まあ、いい！オレはレスキュー・ラビットの効果発動！オレはレスキュー・ラビットを除外し、ハウンド・ドラゴン二体を召喚！」



「えっ！べ別に何にもないわ。まあ、私が負けたから別に話をなくていいわよ。じゃあ！」

私はさつさと自分の部屋へ向かった

「お、おい龍可？」

龍の声を無視し、私の部屋に入った

・・・何で私龍の事を見て鼓動が早くなったの？  
もしかして・・・

龍に惚れたの？かな・・・



## 第五話（前書き）

この小説を読んでいる皆様にお知らせがあります  
第四話のデュエルの所に可笑しい部分があったので  
編集しました

もし、暇があれば是非読んで下さい！

今回は大会編に突入です！

では、始まります！

## 第五話

SIDE：龍

やってきました、大会編！いや〜・・・こんなにすぐだと思わなかったよ、オレ。だって龍可とデュエルしてたの一週間だぜ？誰だって驚くだろ。えっ、驚かない？まあ、オレはオレだからな！ハハハ・・・

まあ、龍可とデュエルした後オレは龍可と龍亜に真実を告げた

そりゃ、全部言ってるよ？まあ、龍可達に言った事は：

- ・オレは記憶を全部失ったわけでは無いが、色々知らない事がある
- ・黒い鞆は夢で見た物とまったく同じで誰かにそれを使えと言われた
- ・・・それ位だと思う。あ、後 龍可達には黒い鞆の中身は見るなと言った

いや・・・そりゃ、普通だろ？地縛神やら5d'sのドラゴン見られたら、オレ一発で殺されね？

まあ、そんな事が起こりオレと龍可達はスタジアムへ向かっている  
原作通り、龍亜が龍可の変装をしてデュエルする事になった

「それにしても、よくオレ達入れたよな 龍可？」

「まあ、それは私の関係者以外ここに入ってはいけない見たいだし・・・」

「まあ、別にいいじゃん だってオレがデュエルするじゃん！」

「龍亜はノー天気過ぎだ！」よ！」

そう龍亜にツッコミながら、オレ達は対戦者達を通る廊下を歩いた  
些細な話を龍可達と話してたら、イキナリ龍亜がはしゃいだ

「ねえ、龍可！あれって遊星だよね？」

「えっ！あ、本当だ！」

「遊星！久しぶり！オレ達の事、覚えてる？」

龍亜が遊星の方へ走っていった

遊星は龍亜と喋り、こっちに向かって来た

「・・・お前が龍か？俺の名前は不動遊星だ。よろしく」

「・・・」

「？どうかしたか？」

「ねえ、龍？何で固まってんの？」

遊星と龍亜がオレの心配をしていた。だがオレの脳内はすでにカー  
ニバルが始まっていた

遊星じゃん!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!

スンゲー!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!

いや、近くで見るとマジでカッコいいぜ!!!!!!

やっぱ、一番好きな主人公は遊星だわ

えっ、他の三人は？

いや、まあ・・・好きだけど・・・

何か・・・ノリに乗れねえんだよな・・・

まあ、とにかくオレは遊星に会えてとても感動している！

「龍、大丈夫？帰る？」

「ハッ！いやスマン、スマン。ちょっと意識が飛んだだけだ。不動遊星か・・・よろしく！」

「ああ・・・（本当に大丈夫なのか？）」

・・・遊星が憐みの目でオレを見ている様な気がする。でも、オレは気にしない！

「まあ、遊星 頑張れよ！オレと龍可は応援してるからな！」

「龍、オレは？！」

「スマン、忘れてた・・・」

「龍、ひどいよー！」

龍亜とオレの会話を聞いた遊星はフフツツと笑った

遊星さん、カッコいいですぜ！

オレがそう思った瞬間、オレは会うはずの無い声を聴いた

「いや……それにしてもここは広いな……って龍!？」

「なっ、秀!？」

そこにはオレの前世での親友、もりやま森山 しゅう秀がいた

「えっ！知り合いなの、龍?」 「……知ってるのか、秀?」

「まあ、知り合いだよな龍?」

「ああ、まあな……」

龍可と遊星が他に質問をする前に、アナウンスが流れた

「デュエリストの皆様。ただちにステージの方へ向かって下さい。  
繰り返します……」

「あっ、早く行かねーと!じゃな、遊星、龍亜!頑張れよ!」

「うん!」 「ああ。」

そこでオレ達は遊星と龍可に変装した龍亜と別れた

「んで？何でお前ここにいんの？」

オレは秀と二人つきりになった時、秀に聞いた

「いや〜・・・俺もお前にここで会うなんて予想もしなかったよ！俺は神っていう爺に5d'sに転生させられた。お前は？」

「・・・オレも同じ流れだ」

「嘘！マジで！じゃ、一緒に「あの爺はどっか行つた。代わりに小つちやい女の子が神になつた」つち・・・まあ、いいや。この際、ここまでの道のりを話そうぜ！」

そしてオレ達は最近までの出来事を話し合つた

秀は爺に転生させられた後、遊星に出会つたらしい。その頃の遊星はアキに初めて会つた後だった。秀はすぐに遊星と仲良くなつた。そして秀が自分は記憶消失で住む場所も覚えてないと言つたら、遊星は自分が滞在している場所に連れていつたらしい。その数日後、遊星と一緒にこの大会へ来たらしい。

「はあく・・・お前はいいな、秀！転生して早速遊星に出会つたんだからな・・・羨まし！」

「いや、お前もいいじゃん！龍亜と龍可つてそんなに色々聞かないだろ？オレなんて三時間ずっと事情聴取見たいな事になつてたんだぜ！本当に寝る時間にはもう半分魂出てたぜ」

「いや、オレだつてな」二人とも何の事、話してるの？」えつ、龍可？！」

突然オレ達の横にいた龍可に吃驚しているオレと秀を見た龍可は

「何？隠し事？」

「い いや、何でもないぜ！なあ、龍？」

いや秀！オレに振るなよ！！！！

「ああ、それより早く席に座ろっぜ、な？」

「う、うん！」

龍可はオレの表情を見て顔を赤くしながら急いで席に座った

「？なあ、秀？オレ何か変な事したか？オレただ普通に喋って笑ったのに何で顔が赤いんだ？」

「さ さぁ・・・（お前の天然度に世界中の人々が呆れるわ！どっから見ても、龍可がお前に惚れてるんだろが！）まあ、試合を見よっぜ！」

「ああ！」

「……んで何でこんな事になったんだ？」

今オレ達はスタンドで龍可と一緒に立っている

もうこの状況でお分かり頂けたらだろうか？

そう、オレと秀も敗者復活戦(?)に選ばれたのだ

龍亜とボマーがデュエルする時、龍可は気分が悪そうだった

もしそれだけだったのなら別に大した事では無かったのだが

何故かそのシグナー・センサー(オレはそう呼んでいる)はオレと秀に反応しオレ達までもがデュエルの間、酷い頭痛に侵された

そして一回戦が終わった後、ステージにMCの声が流れた

「では、ここで何とこの会場の中にいる三名はこの大会に参加出来る！そのスーパードラッキーな三人は……一回戦で負けた龍可選手！そして……片倉龍と森山秀だ！！！！呼ばれた三名はただちに

スタジアムの方へ来てくれ！」

っと言う事でオレと秀と龍可は遊星と一緒に出番を待っている

「良かったな龍可、秀と龍。頑張れよ」

「ああ、頑張るぜ遊星！」

秀は元気よく遊星に返事した

だが、オレ達はこのデュエルで勝つ気は無い

だが、負ける気もしない

だから、二人で相談してある方法に辿り着いた

そう・・・制限カードをいっぱい使ったら、そのデュエルは無かった事になるだろう！っとオレ達は考えた

ちなみにオレは戦う前に事前に神に言つといた

そしたら神は

「OK！それ位楽勝だよ　まあ、もし勝つたららの話だけどね」

と承知してくれた

・・・さあ、ゴドウィン見るがいい！

オレ達の制限カードがたっぷり入ったデッキでのデュエルを！



## 主人公（2）設定（前書き）

今回は準主人公の設定を書きます！

つーか・・・主人公二人作るつもりは無かったのに・・・

まあ、話が面白くなるんなら別にいいだろう！（ええんかい！）  
では、設定です！

## 主人公(2)設定

主人公(2)設定

名前：森山 秀もりやま しゅう

年齢：14歳

身長：168cm

誕生日：6月14日

性格：

正義感が強い

皆に優しい(特に子供)

ツツコミもするが、ほとんどボケに走ってる

嫌いな奴には容赦なく毒舌を吐く

趣味：デュエル、ゲーム、バスケット、昼寝、読書

見た目：

茶髪に青い目(父：日本 母：アメリカ)

顔が整ってる

前世も同じ顔

好きなもの：仲間、デュエル、林檎、ゲーム(特にB S R)

嫌いなもの：虐める奴、カードを奪う奴、マヨネーズ

使用するデッキ：色々使います

主人公（2）からの一言：

これからも、頑張るぜ！

## 主人公（2）設定（後書き）

いや〜・・・設定、思ってたより早く書けました

その内、一話30分程度で書けるかな？（いや、無理だろ）

まあ、設定はこれで終わりです！

後、お知らせがあります！

作者はもう一つ小説を書こう！って思ってます

もし暇があれば、是非読んで下さい！

ちなみにまだ書いてないので、書いた次第前書きに書きます！

では、また！

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9186w/>

---

遊戯王5d'sにトリップ!?

2011年10月21日00時14分発行